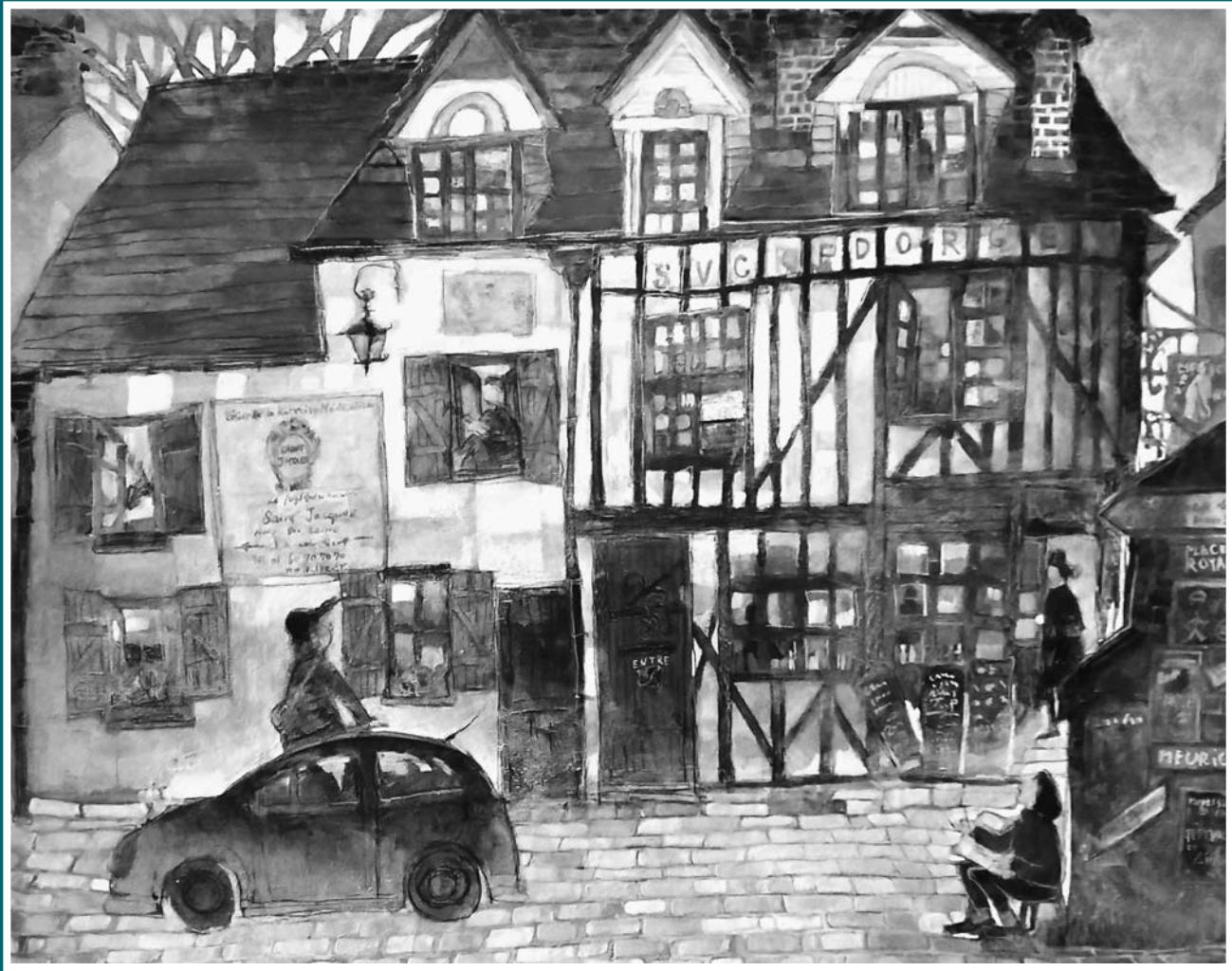


# やまさき文化

’17-3 \*No.36



ある貴族屋敷の謎

特別寄稿  
・資料収集熱と人間的進歩  
山崎における能楽文化と江崎家

## 社会の進展に思う

宇栗市山崎文化協会会長

福岡久藏



戦後七十年余り、アメリカやイギリス、フランスなどが中心になって進めて進めた国際社会は糾余曲折があったとはいえ、信頼と対話に基づいた協調路線が敷かれ、国を超えた協力関係や相互依存を深め、日本をはじめ多くの国々が社会の安定と繁栄を追求してきましたように思います。

しかし、昨年イギリスが国民投票で欧州連合（EU）からの離脱を決めました。つまり「イギリスはイギリスだけのことを考えていいます」というのです。

続いて、アメリカ大統領選挙がありました。私は期待を持ってテレビを観ていたのですが、それがどうでしょう。何とも醜い選挙戦でした。挙げ足を拾い、誹謗し合い、最後には国民が敵か味方かに二分され、罵り合うというまるで喧嘩です。結果は「アメリカが第一」を言い続けたトランプ氏が大統領になりました。アメリカもアメリカだけがよければ良いを選択したのです。

世界は地球温暖化の問題解決を急がなければなりません。テロの問題、難民の問題、核拡散の問題、そして今、インターネットによる犯罪が増加していると言われています。本当に問題は山積していますが、一国で考えてもどうにもならないことばかりのようです。そのうえ、世界はどんどん複雑化していく、人の社会でありながら把握するのが難しくなってきたようです。これから私たちはどう生きることが正しいのか、どう生きたら良いのか、そんなモデルはもうどこにもありません。

他人のことなど放っておいて、自分のことだけ考えていけばいいのでしょうか。先のことなどどうなると、今のことだけ考えていけばいいのでしょうか。最後はお金のことだけを考えていけばいいのでしょうか。

しかし、私たちには良いことがあると一緒に喜んでくれる多くの仲間があります。また、失敗しても慰めてくれる家族があります。迷ったときには共に考えてくれる先輩や同僚がいます。私たちは常に多くの人々に支えられていることに心して、共に生きることを考えることが大切なのだと思います。

俳句 短歌

北但馬サクラ紀行  
岡山自然保護センター

芸人の俳句

かるた同好会のこと  
冬の真ん中で寒椿に出会いつて  
世代をつなぐ宇原獅子舞

合唱団に入つて  
昭和会の「これまで」と「これから」

私の好きなこと  
さつき民踊グループとの出逢い

名文が生まれた背景を探る  
詩吟と共に

花は色 踊りは心 人は道  
和太鼓に魅せられて  
山崎小唄に想う

1UP(わんなっぷ)  
すべてに感謝 そして基本を大切に

目標に向かって 健康第一  
黒穂豊子先生を偲んで

中井妙子  
堀川弘美  
西尾紀彦  
大部輝美  
安井克典  
中野みつゑ  
田中義弘  
山口撮徹

杉元孝行  
石田陽子  
中居里子  
亀井陽子  
中瀬公三  
竹添和彦

川柳破丸会  
認知症の予防と囲碁について  
第三十八回 春の芸能祭のご案内  
歴代特別寄稿者一覧  
事務局だより

表紙題字

編集後記  
表紙画／カット

荒木俊介	柳田芳伸	江崎欽次朗	森本萬千子	鳥羽チエノ	12	10	9	7	1
中居里子	大谷省三	清水省三	清水和彦	中瀬公三	26	26	25	24	24
中居里子	司郎	和彦	和彦	里子	25	24	23	23	23
俊介				恵	24	24	23	23	22
				陽子	22	22	21	21	21
				亀井	21	20	19	19	19
				中居	20	20	19	19	19
				杉元	19	19	18	18	17
				西尾	18	18	17	17	16
				安井	17	17	16	16	15
				大部	16	15	15	15	14
				中野	15	15	15	15	14
				田中	14	14	14	14	14
				山口	13	13	13	13	13
				前田	12	12	12	12	12
				ゆき子	11	11	11	11	11
				谷川善彦	10	10	10	10	10
				伊藤一郎	9	9	9	9	9
				里見亘	8	8	8	8	8
				鳥羽チエノ	7	7	7	7	7

## 今昔千一夜物語

# ある貴族屋敷の謎

荒木俊介

「大理」とも称され、代々赤い唐櫃を引き継ぐ慣わしになっていた。

檢非違使別當といえども、都の治安を守る重要な役職だが、最高位の別當ともなると名

譽職のようなもので、實際はその部下の檢非違使佐の指揮のもと、檢非違使大尉、中尉、少尉、檢非違使大志、小志以下府生、看督長、案主長、火長、下部、放免といった様々な役職の役人によって組織されて平安京の治安が保たれていた。

この檢非違使別當の何代目とか、いつの頃といった事は詳らかではないが、三位藤原忠長卿という人がいた。檢非違使別當ともなると三位以上でないところに触れるのが楽しいのである。

この忠長卿、至って気さくな性分で気が向くと目立たぬ身なりでぶらりと京の町中に出で行く。堅苦しい内裏内の勤めから逃れるためではないといえば嘘になるが、何よりも街中を一人で気儘にぶらりと歩いて様々な京童たちの生き様に触れるのが楽しいのである。

殊に買い物客や冷やかし客で賑わう東市やその前の広場の賑わいは都で最も繁華なところである。京童だけではない、諸国から産物を運んできた運脚夫や京見物に訪れその都の繁華さに気持ちもそわそわで目も据わらぬ遠国の田舎人など実に様々である。

この広場から東に向かって家屋も疎らになりかけた辺りには近頃流行り始めた猿樂という世相を風刺した劇を演ずる小屋もあって人気を集めている。汗臭い京童たちの後ろの目立たぬところで侍女を伴い市女傘に顔を隠した女人の姿も見られる。

劇といつても筋のある劇ではない。殆んどが風刺まじりのお笑い寸劇で、それでも終わると忽ち客が投げる禄物で舞台の上が埋しまってしまうほどの人気である。

猿樂劇だけではない、傀儡の一団が道端の空き地で曲芸を演じているところでは黒山の人だかりである。

こうして氣楽にぶらりと歩いていると庶民たちのたくましい生き様が感じられて氣分もほぐれて生き返ったような爽快感さえ覚えるのである。

帰りはもと来た東市の広場を抜けて東堀川通りを北に向かうのだが、少し行くと東側に一際大きな商家がある。主の名は八十磨呂といった。藤原卿は帰りにはよくこの八十磨呂の店に立ち寄ることにしている。立ち寄り始めてもう十年近くなるであろう。

主八十磨呂の誠実な人柄もあるのだが、何よりも市井の噂話は勿論のこと、諸国の様々な話が早く耳に入るのが何より楽しみでもあり、又諸国情勢を知る上でも役職上有益なことも多い。

馬借や車借を使って諸国から物資を買い集めるだけなく、遠く博多辺りとの取引では店の持ち船で瀬戸内を往き来するほどの手広い商いをしている。扱う品物も身近な物では旅には欠かせぬ草鞋から高価なものでは博多に出入りする宋商人を通じて宮廷人たちが競って買い求める高価な宝石、陶器から麝香、沈香といった香木など様々な品物を手広く扱っている。

今日も藤原卿はいつもの様に京の街中を気ままに散策を終えて八十磨呂の店に立ち寄っていた。

主の八十磨呂も藤原卿の姿を見つけると他の手代たちをさしおいて自ら出迎える。

「これはこれは、大理様お越しなさいませ」

心得たもので藤原卿さまなどは決していわない。大理とは檢非違使別當の宮廷における唐に倣った敬称であることをわきまえているからである。うわべだけではない。藤原卿の飾り気のない人柄が親しみよいのである。例によつて都の噂から諸國のできごとなど様々な世間話の後改まって

「所で八十磨呂どの、折り入つて相談があるのだが、……」

いつもは店先での小話などで帰つて行くのだが、込み入った話のある時は奥座敷に案内する。

「それじゃ一寸奥に入つてくるからね」

と店の者たちにいいおいて藤原卿と共に奥に入つていった。いつもの座敷に上がつて対座すると

「これは又改まつて相談などと如何様なことでございましょうか」

「そのことじゃが、実はな、そなたも存じていることは思うのだが私の永年

の知り合いで四年前に国司として東国の方に赴いた友人が：」

「存じておりますとも、国友とか言われる方でございましょう。あの三条西堀

川のお屋敷にお住まいの方でしたね」

「そう、その者がのう、今年で四年の任期がきれるのだが、もう都には帰りと

うないからあの屋敷は売れるものなら売つてくれといつてきているのじゃ」

「早いものですなあ、もう四年がたちましたか。ところで、つかぬことをお尋

ねしますがどういう訳で帰られないのでしょうか」

「これはまあ私の推測だが、もう向こうではかなりの土地を伐り拓いているよ

うだが、これからもまだまだ伐り拓いて、行く行くは土着の豪族として暮らし

て行こうとも思つておるのじゃろう。我々と違つてなかなか人使いにたけた

男であつたからその方があの男には向いているのだろう」

「そうですか、そういうえばよく聞く話ですなあ」

「土地の者もまた都とのつながりの深い者がいてくれる方が何かにつけて都合

がよいと思うておるようじゃ」

「なるほど、そういうものですかね」

八十麻呂は深くうなずいた。

「まあそういう訳で物の売り買いなどは我々は不得手じゃからのう、顔も広く

たのじゃ。」

「話はよくわかりました。ですが

と一寸思案して

「大理石も義理堅いお人柄、頼まれればいやとはいはずお引き受けなされたの  
でしおうがあの屋敷のある辺りは右京の四条西堀川辺で、御存知のこととは思  
いますが湿地が多く住み勝手が悪いため、去る者はあつても住みつく者はいな  
いといわれるほどの土地柄でして、なかなかおいそれと買い手が：」

「分かっている、分かっている。だからこそ、そなたにこうして頼んでいるのだ。だが、どうでもと/orのではない、他人の物だ、私にもそれ程の義理合いはない。それにも又、今日、明日といった急な話ではない。ただ気に留めておいてもらえばいいということだ」といつて帰つて行つた。

その屋敷、主が住んでいた頃はまだ貴族屋敷として立派な構えを誇つていたものが、ここ一年余り前ごろからはもう都に帰る気は無くなつたとみえて放

置されたままのため周囲を巡らした堀もところどころ崩れ、庭の池の水も濁つたままである。そのうえ湿地の多い右京である。雑草も生え放題に生えている。

八十麻呂も一余程事情のある者でない限り買い手はあるまい。大理石も帰り際にそれ程の義理はない。ただ気に留めておいてもらえばいいと仰せられたいたから買い手が現れるまでそれほど気にすることはあるまいーと気楽に考えていた。

ところが、意外にもそれから半年もたつか、たたぬ頃思わぬ買い手が現れた。それは今、都でその商いでは一、二を争うほどと噂される若い女金貸しであった。

先代の父親のころは地味で目立たぬ金貸しであったが流行り病で三日ばかりの患いで亡くなつた跡を継いだ一人娘の乙妙が長年父親に仕えていた遣り手の手代頭良造の援けでここ二、三年と経たぬうちにみると見る都でも一、二を争うほどの金貸しになつっていたのである。



からといって先代が苦心して折角ここまで大きくなされた店を何も止めることはありません。商いはわたくしや手代たちが先代の教えを守って立派にやっていきますから安心なさいませ、それでも乙妙様は女人とはいってもたった一人の跡取りです。何もなさらなくてもよろしいからただ帳場に座って居てください

ばいいのです。あとはわたくしでもにお任せください」

ということで乙妙も言われるまでもない父が苦心して作り上げた店であるというだけでなく、今店をたためば手代たちも行く先に困るに違いないという思ひもあって良造のいう通り帳場に座ることにしたのである。

商いに長けた良造にしてみれば口にこそ出さないが器量の良い乙妙が帳場に座っているだけでも客は寄ってくると胸算用をしていた様である。

それだけではなかった。ゆくゆくは乙妙と一緒にになって店の主におさまりたいと心中密かに願っているようだが乙妙の方は一向にそのような気配はなさそうだというのが大方の世評のようであった。

それでも良造は何の経験もない若い娘がその日から帳場に座るとなると傍らに走り使いくらいは出来る者がいないと不便だろうというので年の頃十二、三の小者をつけてくれた。

この小者、亡くなつた先代の父親が亡くなる四、五日前に所用の帰りにたまたま七条高倉小路辺りにさしかかったときには家の軒下で檻轎を纏つて寒そうに震えている子供に出会い可哀想に思い連れて帰つたのである。その時見上げた子供の中に先代の父親の心を動かすものがあつたからである。

そして先代の父親はその子供とまるで入れ替わるように流行り病でぼっくりと亡くなつたのである。所在なげにしているまだ名もない檻轎をまとつたままのその子供を良造はまるで邪魔者でもかたづけるように乙妙の近くに置いたのである。

ところが傍らに置いて使つてみると父親が連れて帰つただけに身なりこそ檻轎を纏い髪の毛は伸び放題の浮浪児だが、目端の利く利口な子供である。

乙妙は驚くとともに見直した。そこで少し大きいが使い古した手代の衣服をつくろうて着せると見違えるような手代になつた。そこで名も孝太とつけてやつた。

手代頭の良造の方は先代が亡くなると遣り手だけに乙妙が何も分からぬのを幸いに今までの商いの仕方をがらりと変えて手広くして見る見る都でも一、二と言われるほどの金貸しになつていたのである。

八十麻呂の店に日常使う品物を長年仕入れに来る販婦ひきぎめがいる。五十前後の初老の女だが苦労したせいか老けて見える。得意先の屋敷を回つて品物を売り歩くのである。中には前日に頼まれていてる品物もある。商売柄口も達者だが欲も深い。六条烏丸あたりに住んでいるところから烏丸の婆さんと呼ばれてこの近辺では顔馴染みも多い。

今日も品物の仕入れに来て丁度居合わせた手代頭の幸助と出会うと、早速そ

の貴族屋敷の話をきりだした。

「例の三条西堀川の屋敷が売れたらしいな」

「さすが婆さん耳が早いな」

「早いも何もねえ、もう大工や人夫が入つて手入れをしているよ」

「へえーそうかい、あの屋敷も国久様がお住まいの頃は豪勢なものだったが最近は妖怪でも住んでるんじゃないかなって噂するほど荒れていたからな。でも婆さんはいい話になるよ、あそこに金貸し屋の手代たちが住むようになりや、又いい得意先が増えるつてもんだからな」

屋敷の裏の勝手口から出入りして、使用人たちの溜まり部屋で商いをするのである。

「そうなりやいいんだがな、だが、世の中なかなかそういううまくゆかねえもんだ」と販婦の老婆は一人で呟き呟き帰つて行つた。

それから一ヶ月ほどたつて荒れた屋敷の修復も終えたとみえて手代たちがおおいと移ってきて住み始めた。販婦の老婆も早速出入りするようになつたと見えて八十麻呂の店での仕入れの品物が増えてきだした。

しばらくした頃幸助はその販婦の老婆が店に来た時屋敷での商いの様子を尋ねた。

「仕入れの品が増えているようだが例の屋敷での商いの方はうまくいっているようだな」

「そのことなんだよ、買ってくれるのはいいんだが移り住んでくる使用人がだんだんと増えてくるので品物の持ち運びに困っている。だが幸助さん、どうも不思議なのだが金貸しへあんなに人手のいるものかね」

「さあ、その辺のところは私には分からんな。でも、いいじゃないか、商売繁盛で」

幸助はそう答えるしかなかった。

ところが夏も過ぎ、秋風が立ちはじめた頃のことである。その屋敷の周辺で肌寒いような噂が立ち始めた。噂というのは夕暮れのうす暗い頃になると屋敷の周辺に口が耳もとあたりまで裂けた恐ろしい面相の妖怪が現れるというのである。

現にその屋敷に住み始めた使用人の一人が確かに見たというのである。妖怪、天変地異、流行り病といえば何かの怨霊の祟りではないかと都の人々は恐れ戦っていた。噂は忽ち広がり、屋敷の周辺に近づく者の姿もぱつたりと見られなくなってしまった。

その噂話を聞いた藤原卿も屋敷を売ったてまえもあってか気になると見えていつもの散策の帰りに八十麻呂の店に立ち寄ると早速その噂話を持ち出した。「近頃あの屋敷の周辺に奇妙な噂が立っているようじゃが、そなたも聞いていられるであろう」

「聞いていますとも、口が耳もとあたりまで裂けた恐ろしい顔の妖怪だとかいふことのようでございます」

「そうらしいのう」

「なんでもあの屋敷の者が確かに見たということです」

その妖怪に出くわしたという使用人の話によると、口が耳あたりまで裂けた凄まじい形相に気も動転してふりむきざま一日散に逃げ、もう大丈夫と思つて振り返るとその妖怪も諦めたのか白い衣を翻しながら後ろの森の暗闇の中へと消えて行つたというのである。

「ふーむ、何の祟りかわからぬがこの夏の流行り病とい、どうも物騒な話が多いゆうてならん」

何かもう一つ納得のいかぬ表情である。

販婦の老婆は老婆で

「折角いい得意先が出来たというのに又妖怪などと物騒な話が起きて夕暮れ時など気味悪くてうっかり近づかれやしないよ」

とこぼしている。

しかしこの物騒な妖怪話はそれだけでは終わらなかつた。それから一ヶ月ばかりたつたころからこの販婦の老婆の姿がぱつたりと見られなくなつてしまつた。

先ず初めに気づいたのは八十麻呂の店の手代頭幸助であつた。ほとんど毎日のように店に来ていたものだが妖怪話から一ヶ月ほどたつた或る日を境にぱつたりと来なくなつてしまつたからである。

はじめ一、三日ほどは体のどこかでも悪いか、何か都合の悪いことでも起きたのであろうくらいに考えていたものだが、四、五日ほどたつたころ八十麻呂は不審に思い幸助に尋ねた

「この頃あの烏丸の婆さんの姿が見えないようだが何か婆さんから聞いているかい」

「そうなんです。私も気になりかけていたところですよ」

「ふーむ、それは変だな、あの屋敷の近くでの妖怪の噂といい。それで七条烏丸の住まいの方は当たってみたかい」

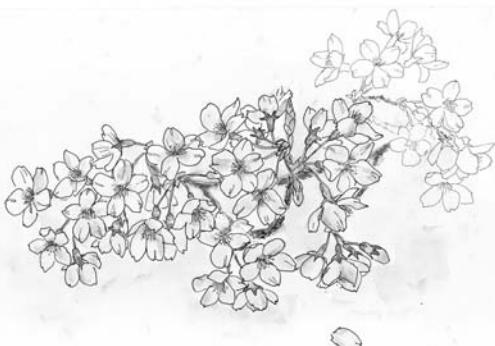
「いいえ、当たってみなければと思ひながらつい延び延びになつております」

「そうなんですか」

「それはいかん。四、五日もとなると何かあつたに違ひない。明日にでも婆さんの家にいってみなさい」

その翌日幸助は七条烏丸の販婦の家を訪ねてみた。戸を叩いて声をかけてみたが全く返事がない。

しかたなく戸をこじ開けて中にはいって見たが案じていたとおり全く



人気がなく静まり返っている。不審に思つて辺りをくまなく探してみたが老婆の姿は何処にも見当たらなかつた。

老婆に何かあつたことは間違いない。俄かに胸騒ぎを覚えて引き返し、そのことを主の八十麻呂に報告した

「老婆の住まいを隈なく探しましたが全く見つかりません。何処にも居なくなつたことは間違いないようです」

「矢張りな。何もなければと案じていたのだが……」

「しばらく様子を見ているより外なさそうです」

「それから二、三日たつた頃藤原卿が例によつて訪れる

「八十麻呂殿、ここに出入りしていた販婦の老婆が急にいなくなつたという噂が広まつているようだがそなた何か聞いているかのう」

「さすが大理様お耳が早うございます。さよう、もうかれこれ十日余りほど前頃から店にも顔を見せなくなりましたので手代頭の幸助に老婆の家に様子を見に行かせましたところ、家は蛻<sup>もぬけ</sup>の殻で全く手掛かりがない今まで手前共も気掛かりにしております」

「矢張りな、しかし十日余りもたつているとあの婆さん確り者だといつても何かあつたことは間違いない、放つておくわけにもいくまい。それしても最近どうもあの屋敷の周辺は妖怪だの何だのといった奇怪な話が多い様だのう。これが鞍馬だの高尾だのと言つた山奥の話ならともかく邊鄙な右京とはいっても帝のおわす都内だからな」

「手前共があの屋敷の売買に関わつただけに気になります」

「そういうことだ。私もそれでこうして今日は寄せてもらつたのだ。老婆とはいえ人一人がいなくなつたのだからな。放つておくわけにもいくまい」

こうして藤原卿は何か期するものがあるかのように不審気に首を振り振り帰つていつた。

それからしばらくたつた頃噂の貴族屋敷や女金貸しの店に検非違使府の役人による大掛かりな手入れが行われ、手代頭の良造と一、三の手代が検非違使府に引かれてゆくという事件が起きた。

そのあと役人たちによつて屋敷の大掛かりな捜索が行われているということである。その屋敷をめぐつて良造らに何かあつたことは間違いない。尾ひれのついた様々な噂が飛ぶのが悪い憶測ばかりである。

幸いなことに後に残つた乙妙らには類は及んでいないようだが、さすがに店はがらがらで商いはしているが客の姿はほとんど見られないといった有様である。

「あの女金貸しの店も先代が亡くなつてからは乙妙のような若い女主では良造のような手代頭は手に余つたのであろう」

と世間では噂をしあつてゐたが、それでは良造らはどのような悪事をしていったのかとなると全く分からぬ。

だがそれも暫くで、何処からともなくあの貴族屋敷には地下に秘密の部屋が造られ、その部屋で良造ら一味が贋金を造つていたらしいという噂が出始めた。人々はその噂話を驚いた。贋金造りといへば重罪である。斬首は免れない、しかも種銭に宋銭があるところからゆくゆくは大量に造つて宋に密輸しようと思企んでいたらしいという尾ひれのついた噂までがとぶ始末である。

その噂話もようやく収まつた頃久しぶりに八十麻呂の店に藤原卿がやつてきた。  
「おや、これはこれは大理様お久しうぶりで」といつてから声を落として

「この度は大変な事で、さあ奥へどうぞ」  
店先で話すようなことではない。奥座敷に案内して対座すると

「ところで大理様例あるお屋敷の件はどうなつております。手前も売買に関わつただけに気になつておりました」

「そうであろう、こちらも事が事だけに気になつておつたのだが何かと忙しうてのう」

「噂ではあの屋敷では地下に部屋がつくられて贋金が造られていたとか……」「もうそんな噂が飛んでいるのか、——隠すより現る——ってことだな。こんな事にならうとは夢にも思わなかつただけにそなたにまでとんだ迷惑をおかけ申し

た

「何を仰せられます。人間誰しも先のことは分かりません」

「それについてもあの手代頭の良造とかいう男は先代の亡くなつた後乙妙とかいふ一人娘が何も分からぬのを幸いに飛んでもないことをしでかしたものだ」

「なかなかのやり手だつただけに先代の頃と違つて都でも一、二と言われるほど金貸しにしたほどの男ですが行く々々は乙妙とかいう一人娘と一緒になつてあの店を継ごうと思っていたのがうまくゆかず、あのような事を仕出かすようになつたのではないかということが世間の風評のようござります」

「やり手だけに哀れな事だ。あの屋敷の周辺に妖怪が出るという噂を流したのも良造一味の仕業であの屋敷の周辺に人が近づかぬようにするための悪知恵だったのだ。あの販婦の婆さんがいなくなつたのも出入りをするうちに屋敷の様子が変だと気づいて深入りするところを捕らえられて殺されてしまつたのだ」

「確り者の性分が災いしたようですな」

「それにしても近頃は下人たちも錢の便利さに気づいたらしくこの賄金造りといふのが諸国にも横行して巧妙に隠れているため我々も困惑している」

「おや、都内だけことではございませんので」

「そういうことなのだ」

「それは困ったことで、我々商人も気をつけなきゃなりません」

「ところで暗い話ばかりだが明るい話も出始めているのだ」

「といいますと」

「うん、あの乙妙とかいう女金貸しの店に最近亡くなつた先代が七条高倉小路の四辻の軒下で寒そうに蹲うずくまつていた孤児を見つけ哀れに思つて連れて帰つたのだが、その孤児が今では立派な手代になつて……」

その手代が先代の目にかなつただけあって手もとにおいて使つてみると意外に氣の利く利口者で名前も孝太と名をつけてもらい、今では健気に女主の乙妙を支えて良造の無き後も曲がりなりにも店を営んでいるが、暫くはこの度の事件の後だけに客足も遠のいて苦労しているということである。ところがその孝太という手代が自分が孤児であった頃の苦労を思い起こして、あの屋敷を孤児や浮浪者らを住まわせるようにしてはどうか、幸い広い庭もあることだし、菜

園などにして耕せば食べていくことも出来、世間にも役立つ。又そうすることによってこの度の良造ら一味による悪評も少しは収まり客足も戻つてくるであろうということを女主の乙妙にすすめたところ乙妙も大層喜んでその様に事は運ばれているというのである。

「そこでそのことを早速、東国の国友に知らせたところ自分の住んでいた屋敷がその様なことに使われるとは名誉なことだと大層喜んで応分の援助はしたいといつてきているのだ」

というのである。

「いい話を聞かせて頂きました。一時はとんでもないところに売つたものだと案じておりましたが末よければすべてよしということでしょうか」

「そういうことのようだな、万事めでたし、めでたしということだ」

「それでも人間それぞれに行く先はわからぬものですね」



## 文献・資料収集熱と人間的進歩

長崎県立大学・経済学部（現在は地域創造学部）・教授

柳田芳伸

（佐賀市山崎町出身）

山崎文化協会からの今回の執筆依頼文が届いた日のことである。二年次生の演習を終え、一息つき研究室に戻ろうとしたその時、女性のゼミ生が私の所有している書物を拝借したいと申し出でてきた。一ヶ月ほど前に講義の中でその学生に読書を推奨していた書籍である。このこと自体は前向きで歓迎すべきことである。いな、スマホ時代で読書離れが甚だしい当節では、むしろ感心、称賛すべきことであるかもしれない。でも、一瞬ためらってしまった。いかんせん、十二畳ほどの私の研究室は既に数えきれないばかりの（実際、数えたことのない）本で溢れかえっていて、所望された書巻を即日のうちに無事に見つけ出しえるか不安に駆られたからである。

人文・社会科学系の研究者なら、誰しも一度は類似した苦い経験をお持ちであろう。元来不精である私などは日常茶飯の事である。幸いにも、まつとうなテーマらしきものが思い浮かんだとしても、もはや書庫と化してしまった研究室のここかしこに平積みにしている本の山々からお目当ての文献を引き出していくのは苦痛の伴う肉体作業以外の何ものでもない。

まず、夥しい書冊を分野別に分け、両側の壁に隙間なく連結した八段の本棚と室内に迷路のように設置した六段の書架とに二重にして押し込めている。それでもなお収まりきらない大量の冊子はやむなくスチール架にそって横並びに、そしてサイズ別に一メーター強に積み上げている。その結果、研究室は文字通り、足の踏み場もない、かつ途轍もなく窮屈な空間になってしまっている。そ

の上、粗雑に大別しているにすぎないので、和文献ならまだしも、欧文献となると一目で判別し、選び出すのは至難の業である。極度の近視がつくづく恨めしい。

ある時などは山積みの本の下敷きになつた干からびた蝙蝠に遭遇したりもし

た。思わず苦笑いする他なかつた。また一ヶ月くらいかけても探し出せず、断念することも一再ならない。最近では、諦観し、独自の本探しを一つの名人芸と開き直つてさえいる。時折、鹿島茂『子供より古書を大事としたい』（青土社、一九九六年）や荒俣宏『ブックライフ自由自在』（太田出版、一九九二年）といった類を読み返し、同病相哀れみ、こっそりと自らを慰めている。もちろん、脳裏のどこかではこうした悲惨な状況から一日でも早く脱却したいと願つてはいる。しかし何らかの（おそらくは健康上の）理由から研究生活に終止符を打たない限り、どうも実現しそうにない。今なお、研究活動の継続を口実にして、最も卑近な良き理解者であるはずの家内から本代をせしめ続けている。毎月のクレジット・カードの請求書が恐ろしい。まるで子供のようである。それでも、時には、良心がとがめて、果たして見合った成果を達成しているだろうかと自問自答し、反省している。

なにゆえに、これほどまで文献収集熱に囚われ、病膏肓に入ってしまっているのだろうか。もとより、大学で経済思想史と人口論を講義するという職業に関連していることは言うまでもない。一種の職業病と言い訳できよう。今日の極めてユニバーサル化してきた大学教育であっても、研究成果に基づいた講義が求められると私は確信している。私の場合、この四十年近く、十八世紀中葉から二十世紀の初頭にかけてのイギリスにおける経済思想の展開に興味を抱き現在に至っている。わけても、只管、イングランドで最初に経済学の講義を担当した経済学者であり、かつ国教会派牧師でもあったマルサス（Malthus, Thomas Robert, 一七六六—一八三四）が筆にした『人口論』（初版一七九八年刊、最終の六版一八二六年刊）とその周辺部に研究の焦点を集中させてきた（拙い学績は末尾に付記している著作一覧を参照下さい）。その過程で蔵書が漸次増殖していき、ついには汗牛充棟になつたとしても致し方ないであろう。そればかりか、経済学はもとより、社会学や生物学等と関連している人口論にも熱い眼差しを注いできたからなおさらである。絶句。

ami（日本の各大学が登録した書籍の検索サイト）を活用して、ILL（大学相互間の図書貸借）を利用すれば、事が足りると思われるかも知れない。しかし現実には貸借制限や貸し出し禁止図書（例えば、一〇〇年以上前の刊行物）もあり、ままならないことも少なくない。やはり身近に揃えておくことが最善である。私は最西端の地にあり、他大学から隔絶された大学に所属してきたの

で、人一倍この思いを痛感している。とくに、ciniに記載されていないような稀観本はそうである。必要に迫られた時に、臍をかむのが落ちである。そういうように、日々、「日本の古本屋」、amazon、AbeBooksなどのサイトで血眼になつて探求書を見つけ次第、懐事情をも顧みることなく注文する羽目となる。近頃では、かつての教え子からロシア版「日本の古本屋」のサイトを教示され、また高校時代からの知友からNaverという韓国のサイトを伝授された。ワードでの文字入力が多少煩瑣でまだ挑戦できていないけれども、既述のような収藏の状況を顧慮すると、正直、残念さよりも安らぎの方をより強く感じている。

この前は、マルサスの『人口論』がどのようにして十九世紀のスペインに受け入れられていったのかという課題に向き合つた。最終的な狙いは、今日でも人口増加の途にあるスペイン語圏のラテン・アメリカ諸国への『人口論』の影響（有無を含めて）の解明である。これまでに、同時期における中国、オランダ、スウェーデンではいかに受容されていったかを俯瞰した機会があつたので、その研究方法は身についていた。しかしおよび最小限のスペイン語の文献が手元になかった。スペイン語文献を殆ど読解できないとはいえ、直に確認しておかねばならない。原文で照合しない限り、論及してはならない。慌ただしく、買おうとしたのは、政変のためにしばしばイギリスへの亡命を余儀なくされた下院議員（在職、一八三四—一四九年）のエストラーダ（Estrada, Alvaro Florez, 一七六五一—一八五二）の『折衷的経済学講義』（初版一八一八年刊、七版一八五年刊）と、Jose A.Moral Santinによってスペイン語に翻訳された二版『人口論』（マドリード、一九九〇年）である。とりわけエストラーダの著述物はラテン・アメリカ諸国に普及し、影響を及ぼした。ともあれまた蔵書が付加された。

## 略歴

- 1954年2月 山崎町に生まれる  
1972年3月 山崎高校卒業  
1981年3月 関西大学大学院経済学研究科博士課程後期課程単位取得退学  
1987年4月 関西大学経済学部及び立命館大学経済学部非常勤講師を経て、長崎県立（国際経済）大学経済学部専任講師  
2001年10月 長崎県立大学経済学部教授（以後、16年3月までに図書館長を5年、経済学科長を4年歴任）  
2006年1月 経済学博士（京都大学：論経博第318号）  
2008年7月～10年7月マルサス学会会長  
2010年7月～16年4月『マルサス人口論事典』編集代表

## 著作物

- 『マルサス勤労階級論の展開』（昭和堂、1998年）  
『マルサス派の経済学者たち』（共編、日本評論経済社、2000年）  
『マルサス理論の歴史的形成』（共編、昭和堂、2003年）  
『マルサスと同時代人たち』（共編、日本評論経済社、2006年）  
『マルサス人口論の源泉—17～18世紀文献復刻集成一』（ユーリカ・プレス、2006年）  
『マルサス人口論の国際的展開』（共編、昭和堂、2010年）  
『マルサス ミル マーシャル』（共編、昭和堂、2013年）  
『マルサス人口論事典』（責任編集、昭和堂、2016年）  
『マルサス書簡のなかの知的交流』（共編、昭和堂、2016年）他  
訳書  
『ステュアート 経済の原理 第3～5編』（共訳、名古屋大学出版会、1993年）他

カウツキーは「余暇は今日では、肉やパンにも余り劣らない生活上の不可欠物になっている」と観察し、とりわけ「学問に関することは享楽の最高の形態」であり、神経や精神に「強い複雑な刺激を与える享楽」であると論じている。すなわち「芸術的享楽」ないしは「芸術的表現物」を「複雑な音律、色彩、形態、感覚を精神の上に影響を及ぼして、精神を働かせる〔高級享楽物〕」と称揚するとともに、「科学の研究」を「精神的享楽」として絶賛して、無限の人間的進歩の可能性を展望したのである。仮にこうした見通しに立つなら、私の飽くことなき文献収集熱も、あるいは学問道楽も強ち無用の長物でないのかも知れない。



## 山崎における能楽文化と江崎家



能楽師　ワキ方福王流  
江崎家十二世　江　崎　欽次朗

この度山崎謡曲同好会から「やまさき文化」の寄稿依頼を受け、若輩者ながら山崎の能楽文化を拙宅、江崎家の事を交えて書かせていただきます。

拙宅、江崎家は元禄時代より続く能楽師、ワキ方（主役をシテ方、脇役をワキ方と呼ぶ）の家ですが、初世・正左衛門が元禄八年（一六九五年）に姫路藩主・本多忠国のお抱えとなり、滋賀の膳所より移り住んで以来、代々姫路で暮らすことになりました。

昭和五十五年より隔年で行われる山崎八幡神社薪能ですが、第一回の開催のおかげで江崎家六世金次郎の息子、直次郎の存在が明らかになった話を祖父や父より聞いています。

直次郎は謡の上手な人で、当時御所のお抱え能役者が不在となり大坂へ渡りその役を勤めておりましたが、大坂で水害に遭い一家は亡くなり、所縁の者の墓の守りもなく無縁仏になりました。昭和五十四年、山中医院の山中陽一先生の母、つね様に山崎八幡神社に古い能舞台が残っているとの話を聞き、祖父が父と拝見に参ったところ、拝殿の絵馬に直次郎の名前があり、当時先祖の事を調べていた祖父は思わず手を合わせたと聞いております。その事が機縁の一つとなり、山中陽一先生、山岸輝行先生、壺阪酒造の壺阪寿様、また鶴崎和美様他、山崎八幡神社の皆様や市民の皆様のご尽力により第一回目の山崎八幡神社薪能が開催されました。歴史ある舞台に出演させていただいた能楽師たちは皆喜び、第五回の薪能にご出演賜った観世流二十五世宗家觀世元正先生は、感慨深く舞台の様子を眺めておられたと聞いております。私自身も子方の頃より舞台に上がらせていただいておりますが、思い出としては夏の暑い中に装束を着て、顔に近寄ってくる蚊を払うことも出来ずに苦しい思いをしたことを覚えております。

また当時の樂屋弁当は八幡神社の婦人部の皆様が焼き込みご飯のおむすびやお味噌汁やオードブルなどを並べて下さり、今でも玄人の間ではよい思い出として樂屋で話題に上がります。

話は江崎の話に戻りますが、江崎の家が何時の頃より山崎へ伺っているかは不確かですが、八幡神社の絵馬堂に直次郎の名前があることを思うと、六世が一八〇八年生まれですので、二三百年前には山崎の地に所縁を持たせていただいていることがわかります。

私事になりますが、一昨年三月に江崎の家督を譲り受け十二世・欽次朗を襲名しましたが、初世より続く江崎家十二代目という歴史の重みを感じています。よく「欽次朗」名前の字について聞かれますが、九世の命日と私の誕生日が同じ日付、また、干支も同じ丑年という縁で、周囲より「丑が死んで丑が産まれた」「九世の生まれ変わり」と幼い頃から言っていたこともあり、曾祖父九世の字を継承しました。祖父、父は「金治郎」を名乗りましたが、自分で申すのも恥ずかしいですが先の二人より控えめな自身の性格には「金」よりも「欽」の字の方が似合っているように思います。

襲名を機に、早くも次世代への継承を意識し始めました。息子の世代は今までに能楽師として生きるには困難な時代になるかも知れないですが、それでもこの能楽という素晴らしい日本文化を絶やすことなく、伝統の「こころ」を大切に繋いでいきたいと思つております。

先日、「継承者を育てる意識が周囲にあって初めて後世に伝えられていく」という一文を目にしました。江崎の家を続けてこられたのも山崎の皆様の努力添えの賜物と心より感謝するとともに、自らも斯道に精進を重ね山崎の地にて能楽、謡曲の普及と繁栄に一層力を尽くして参る所存です。



第5回 八幡神社薪能「翁」

# 短歌

## 「人」お題に歌会始の儀

山崎歌人協会 森本 萬千子

新年恒例の「歌会始の儀」が十三日、皇居・宮殿の「松の間」で開かれた。昨年のお題は「人」。天皇・皇后両陛下をはじめ、皇族方、召人として招かれた歌人の尾崎左永子さん、選者のほか、一般応募一万八千九百六十二首から選ばれた入選者十人の中が、古式に則った独特の節回しで披露された。

天皇陛下は一昨年四月、太平洋戦争の激戦地・パラオのベリリュー島で戦没者慰靈碑に供花し、そこから見えるアンガウル島に向かって拝礼した時のことと詠まれた。

皇后さまは夕空をゆく飛行機を見て若い頃の欧米への一人旅を思い出し、自分と同じように旅をする若者が乗っているのだろうかと想像したことと歌にされた。

## 歌会始の歌

天皇陛下

夕茜ゆうあかねに入りゆく一機若き日の吾あ  
皇后ひめごさま 戰ひにあまたの人の失せしとふ島  
緑にして海に横たふ

永田和宏

三枝昂之

一对の脚が踏ん張る大地あり季節  
違はず種を蒔く人

新潟県 内山遼太  
日焼けした背中の色がさめる頃友  
達四人の距離変化する

篠弘

集団をたえず動かしつづけきてこ  
とば隠しき人となりくる

東京都 高橋千恵  
雨上がり人差し指で穴をあけ春の  
地球に種を蒔きたり

埼玉県 中込有美  
一人でも平氣と吾子が駆けてゆき  
金木犀は香りはじめる  
右にゆっくりはらつてごらん

召人

若人が力を合はせ作りだす舞台の  
上から思ひ伝はる

常陸宮妃華子さま

人と人思はぬ出会いに生涯の良き  
友となり師ともなりなむ

尾崎左永子

駅出でて交差路わたる人の群あた  
たかき冬の朝の香放つ

選者

この歌の「母」が、たぶん低い声で  
呟くようになっていた「桜井の駅  
のわかれ」の歌など、もう知る人も  
すくなくなっているだろう。私ども  
世代は子どもの頃よくうたつた。  
あかねさす真昼間父と見つめる  
青葉わか葉のかがやき無尽

秋篠宮妃紀子さま  
海わたりこのブラジルに住みし人  
の詩歌に託す思ひさまざま

秋篠宮家長女眞子さま  
広がりし苔の緑のやはらかく人々  
のこめし思ひ伝はる

秋篠宮家次女佳子さま

母を見送るくんちの街に  
二手にと人は分かれて放牧の阿蘇  
の草原に野火を走らす

大分県 佐藤政俊

彼等とのつきあひ方と人のごとく  
語られてゐる人工知能

香川県 大林しづの

かぎろひの春の手習ひ人の字は左  
右にゆっくりはらつてごらん

選者

これは若々しい「青葉わか葉」の  
かがやきだが、「父」の存在が、その  
無尽のかがやきをさびしく感受させ  
る。男の社会にある定年というもの  
を間近に控えた父と壮年の息子がも  
ろともに見つめ合う青葉わか葉のか  
がやきは、ただ明るい光を碎いて無  
尽に広がっているだけだ。しかし、  
ここに広がる子から父への、父から  
子への人の情けは不易のものだろう。

がごとく行く旅人やある  
皇太子さま  
スペインの小さき町に響きたる人々  
の唱ふ復興の歌

二人ゐて楽しい筈の人生の筈がわ  
たしを置いて去りにき

福島県 菊池イネ  
休憩所の日向に手袋干しならべ除  
染の人らしばし寝寝す

宮城県 此田和子  
野の萩をコップに挿して病棟に人  
うら坐れば月は昇りぬ

長野県 木内かず子  
撫植ゑて百年待つといふ人の百年  
間は樂しと思へり

長崎県 渡部誠一郎  
人知れず献体手続きしてをりぬ伯  
母を見送るくんちの街に

大分県 佐藤政俊  
二手にと人は分かれて放牧の阿蘇  
の草原に野火を走らす

岡野 弘彦  
夕まぐれ涙は垂るる桜井の駅のわ  
かれを母がうたへば

神奈川県 内田しづ江  
彼等とのつきあひ方と人のごとく  
語られてゐる人工知能

埼玉県 中込有美  
かぎろひの春の手習ひ人の字は左  
右にゆっくりはらつてごらん

選者

これは若々しい「青葉わか葉」の  
かがやきだが、「父」の存在が、その  
無尽のかがやきをさびしく感受させ  
る。男の社会にある定年というもの  
を間近に控えた父と壮年の息子がも  
ろともに見つめ合う青葉わか葉のか  
がやきは、ただ明るい光を碎いて無  
尽に広がっているだけだ。しかし、  
ここに広がる子から父への、父から  
子への人の情けは不易のものだろう。

青葉

初夏のみどりは、花より美しい。  
色も千差万別ならば、その嫩葉が

みるみる伸び広がって青葉となるま  
での季節の色は、どこか心にしみる  
ものがある。もうすっかり春の花が  
散りつくしてしまった終焉感のあと  
の、新しい季節へ向けての繁盛のい  
のちのけなげさや逞しさを感じさせ  
るからだろうか。



俳

句

## 赤穂方面春の吟行

青嶺句会 鳥羽チエノ

良い天気に恵まれて、久しぶりの遠出の吟行です。赤穂坂越浦周辺保存地区を散策した。赤穂藩主も来浦の際は休憩した記録が残されている。藩主専用の部屋、観海楼からは嵐の瀬戸内と生島古墳が展望出来た。

つつじと桜の花の残る海岸添いをひた走り、御崎の「かんぽの宿」は家島群島を正面に、見晴らしの良い丘の上にあった。

嵐の海と島を一望しながらの俳句会となる。

・酒蔵の映える坂越は春模様

美保子

・春霞べんがら格子塙の町

光子

・忠臣を育てし 磐坂越浦

ゆき

・人住まぬ故見たき島春惜しむ

山 緑

・野も山も少しかすみて岬嵐ぐ

沙 羅



「かんぽの宿」赤穂

・坂越浦春の名残りを訪ね来て

富子

・窓あけて花の綻び初々し

富子

・水尾引いて行き交ふ小舟春臘

栄子

・瀬戸嵐ぎて栄古の坂越花は葉に

栄子

・おでん酒昔話しあともどり

杉山美保子

・挨拶も礼儀も正し日焼けの子

田中良子

・雨にはや眠れる合歎や峠深く

良子

・初蝶の付かず離れず土手の道

駆雲

・星屑や時の逃げゆく年の暮

三浦ゆき

・咳の子の背なを撫でつつ子守歌

原田駆雲

・冬日差すここが我が家上の座かな

中尾富子  
永井とみ代

・山茶花の生垣洩るる笑ひ声

鳥羽チエノ

・山茶花の生垣洩るる笑ひ声

薄木満寿恵

・夜寒かな難問パズルあとひとつ

藤井七代

・山茶花の生垣洩るる笑ひ声

本條淑子

・山茶花の生垣洩るる笑ひ声

山岸その子

・ピアノ弾く指の先より秋生る

壇阪加代子

・薦の葉に囁きかけて秋の風

山中正子

・おでん酒昔話しあともどり

田中良子

・ほのぼのと笑顔の揃ふおでん鍋

杉山美保子

・柿若葉幹に爪とぐ猫伸びて

山岸その子

## 青嶺句会詠草

## さわらび句会詠草

・おでん屋の湯気に哀歎行きもどり

門積緑山

・柿若葉幹に爪とぐ猫伸びて

山中正子

・ピアノ弾く指の先より秋生る

壇阪加代子

・薦の葉に囁きかけて秋の風

山岸その子

・おでん酒昔話しあともどり

田中良子

・ほのぼのと笑顔の揃ふおでん鍋

杉山美保子

・柿若葉幹に爪とぐ猫伸びて

山岸その子

・ピアノ弾く指の先より秋生る

壇阪加代子

・薦の葉に囁きかけて秋の風

山岸その子

・山茶花の生垣洩るる笑ひ声

鳥羽チエノ

・山茶花の生垣洩るる笑ひ声

薄木満寿恵

・山茶花の生垣洩るる笑ひ声

本條淑子

・山茶花の生垣洩るる笑ひ声

山岸その子



・夕間暮れ霧に呑まるる京の町

富井幸子

・落ち椿園に安らぐ苔の庭

三浦雪

・百幹の竹を騒がせ春疾風	角野 康子	・つかのまの春の時雨に会うも興	三浦 ゆき
・春夕星ひかり湯に置く京の宿	重田 陽子	・大原やお里御坊の大根花	重田 陽子
・京の旅梅香に漫る歩きかな	福元 敦子	・早春やモネの睡蓮美術館	福元 敦子
・芭蕉碑も枯野の一景鴉啼く	浅田 薫耕	・枯蠅螂生死紛うや陽に眠る	金山 英子
・炭竈や時葬りし山の虚	重田 陽子	・ゆれはげし影の淋しき枯すすき	坂井 恵子
・レクイエム吹雪の中のモーツアルト	清水 省三	・草々に小さき花あり春の風	坂井 久栄
・年のは暮考ありし日を想い出し	高井 麗子	・庭に成る愛しき小玉の柚子湯かな	清水 省三
・老楽の師走顔して忙の閑	田中 慶英	・下校の子舞ふ雪虫に列みだる	杉本 富子
・秋天を塞ぐ雲なし鳶一羽	谷口 昭子	・朝寒や嬰のはっぺの温かりし	高井 智代
・若葉燃ゆ木靈しづもあるたたら跡	鳥羽チエノ	・初茜子らの顔染め長き影	竹内 幸子
・やはらかに芒の画く風の文字	西田 宣子	・芋ほりや弾むよいしょの母の声	寺元多美子
・浅蜊汁十粒の命いただきぬ	速水美知代	・大根を抱えて子等の下校かな	西川 公江
松本 寿子		・我が心映す鏡や初日の出	萩原 恵子
		・木枯しやほうき持つ手に力入る	平形 照美



### 笹ゆり句会・みやこ句会詠草

・撥ね返す箒の先の落葉かな

谷口 昭子

・落葉搔きにほひのやさし日のある

谷口 昭子

て 小田 朝子

・お茶の間に囲炉のありし日の記憶

速水美知代

・柏汁に一枚を脱ぐ夕餉かな

是兼 妙子

・冬薔薇約し玄関小洒落たる

坂井 恵子

・七十路の年改まる至福かな

矢野登次郎

・妹を背に尿のぬくみや遠き冬

重田 陽子

・つい長居窓の細目に釣瓶落つ

坂井 久栄

・赤紙の世の話して彼岸寺

宗平 圭司

・こころして閉め直しても隙間風

坂井 久栄

・つい長居窓の細目に釣瓶落つ

坂井 久栄

・落葉搔きにほひのやさし日のある

坂井 久栄

て 小田 朝子

・お茶の間に囲炉のありし日の記憶

速水美知代

・冬薔薇約し玄関小洒落たる

是兼 妙子

・柏汁に一枚を脱ぐ夕餉かな

坂井 恵子

・冬薔薇約し玄関小洒落たる

是兼 妙子

・妹を背に尿のぬくみや遠き冬

坂井 久栄

・つい長居窓の細目に釣瓶落つ

坂井 久栄

・落葉搔きにほひのやさし日のある

坂井 久栄

て 小田 朝子

・お茶の間に囲炉のありし日の記憶

速水美知代

・冬薔薇約し玄関小洒落たる

是兼 妙子

・柏汁に一枚を脱ぐ夕餉かな

坂井 久栄

# 北但馬サクラ紀行 岡山自然 保護センター

山崎植物同好会

伊藤一郎

昨年の四月には、北但馬サクラ紀行を計画し、村岡温泉に一泊しました。新温泉町のシダレザクラは西日本一位の巨大な木です。また、樽見の大サクラは、国指定天然記念物で惚れ惚れしました。

同月二十九日は、西播磨出発大會に出場し、西播磨の巨木を展示しました。なお、この展示は平成二十九年度四月二十五日から三十日まで、山崎文化会館にて展示する予定をしていますので、多くの方に是非ご覧いただきたいです。

八月には、NPO法人たつの・赤トンボを増やそう会を視察し、代表の前田清悟氏による説明を受けました。農薬の種類によって、トンボの孵化に大きな差があるとのことでした。そのために赤トンボ米育成田を地域で作っており、その現場も視察しました。

九月には山崎文化協会と山崎植物

同好会による合同研修旅行を実施し、タンチョウヅルを飼育している岡山自然保護センターを視察しました。その後、岡山県立博物館にて『カミとほとけの姿』のタイトルの仏像群を見てきました。

私は近くにある夢郷土美術館も見ることができ、たいへん楽しい一日を過ごすことができました。

一一〇一六年七月三〇日（土）に放映されたNHKのザ・プレミアム

「寅さん、何考えていたの？」渥美清・心の旅路」で、渥美清が「風

天」の俳号で二七〇句に及ぶ俳句を詠んでいたということが紹介される

と、番組を見た人たちから驚きの声が局に寄せられた。渥美清（風天）

は、朝日新聞社発行の雑誌「アエラ」

に縁のある人々の「アエラ句会」に所属し、句会への出席は皆勤に近かつたという。

お遍路が一列に行く虹の中  
『カラーバン新日本大歳時記』春の巻の季語『遍路』の例句に、高浜虚子や橋本多佳子らと並んで収められている。その他に次のような句がある。

ただひとり風の音聞く大晦日  
鍋もっておでん屋までの月明かり  
先代（初代）の中村吉右衛門は俳句も一流であった。高浜虚子と交流があり、「ホトトギス」にもよく顔を出した。俳号は秀山で、『吉右衛門句集』（本阿弥書店）がある。俳

## 芸人の俳句

山崎郷土研究会

里見旦

門句集』（本阿弥書店）がある。俳人たちに定評のある『合本俳句歳時記』（角川書店）の第三版には十句が採用されているが、他にも次のよう佳句がある。

台風の去つて玄界灘の月

雪の日や雪のせりふを口ずさむ

初代吉右衛門の孫、松本幸四郎も俳句に堪能である。俳号は「錦升」。

乾坤のこの一球ぞ甲子園

打ち上げて笑顔のならぶ初舞台

乾坤のこの一球ぞ甲子園

さらに、幸四郎の娘松たか子も俳

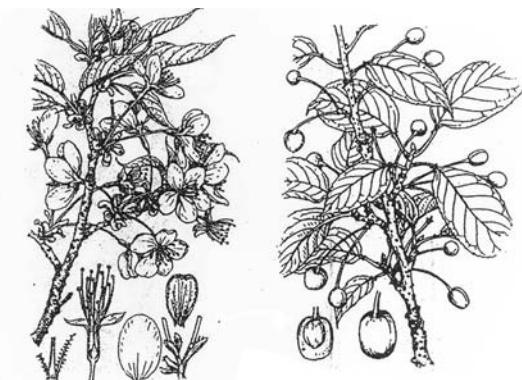
句を作る。

結び上げて亡き人想ふ弥生かな

以上の人たちの他にも俳句を嗜む

芸人は多くいて、私の知る限りでも十指に余る。

芸人の俳句を読む楽しみは、その人の芸風と重ね合わせながら、句作りの過程をあれこれと推量するところにある、と私は思っている。



カスミザクラ

オオヤマザクラ

## 「かるた同好会」のこと

山崎かるた同好会

前田ゆき子

いま私は、かるた(百人一首)に元気をもらっています。

かるたは昔から何時も私たちの側に自然な感じであったように思います。お正月ともなれば、男子は廻揚げ・独楽回し、女子は専ら羽根つきをしました。戸外の遊びに飽ければ、仲間の誰かの家で、家族や近所のひとに読み手になってもらつていろはかるたや百人一首をしました。時には花札やトランプ遊びまで教えてもらいました。罰ゲームも楽しめたなあ……。

こうして和やかな時間が流れていたのでした。向こう三軒両隣りの垣根の低かった頃を懐かしく思い出します。

月に一度のかるた練習会を開くのは、山崎文化専門学校の北川様宅のお座敷を拝借します。縁側の外にあるお庭は四季を通じて趣きがあり、殊に梅の老木が蕾を持つ頃は花の咲

くのが心待ちになります。

会員は各々個性的ですが、楽しみながらどうすれば腕が上がるかとか、お互いが気持ちよく楽しむためのマナーなど、折にふれてアドバイスを受けてながら時々脱線することもあります。

人生の味わい方、楽しみ方は人それぞれと思いますが、月に一度のかかるた同好会にもご参加くださいませ。

人とのふれあいの小半日です。是非いらしてください。



## 冬の真ん中で 寒椿に出会つて

宍粟茶華道協会

谷川善彦

遠く近くに除夜の鐘を聞き、清々しい気分で新年を迎えるました。

昨年同様、大西耕雲会長を始め、各流派の先生方のお力添えを頂き、予定の行事、活動が展開できますよう願っているところです。

ところで近年、日本の伝統文化を広く伝えていくことを目的として、子どもたちに伝統文化体験教室や、伝統文化体験フェスティバル等で、いけばなや茶の湯に親しんでもらう機会がつくられています。

私ども、宍粟茶華道協会でも、日本の伝統文化を学ぶことを通じて、心の豊かさや、生活の潤いを育む機会を提供するとともに、次代の日本の伝統文化を担う人材確保につなげるのを目的に、「笛の子茶道教室」を開き、児童・生徒二十名余り、毎月一回の稽古に励んでいます。また、観月茶会や文化祭では、お手伝いをしながら、その場の空気を体験して

います。各々進級しても、次年度も参加希望があり、加えて新入生があることで裾野が広がるようです。

古くから日本で育ってきた文化も、現在の生活様式の中には、それを伝え続けることが困難になってしまいます。しかし、作法や小習事も含め、今の時代にも必要だと思います。

最初は正座もできなかつた子達が正しく真の礼ができるようになり、隣の友達に対し次礼もできるようなりました。

千利休の四規七則にある「相客に心せよ」ではありませんが、上級生が下級生に色々と気を配っているのを見たとき、「なかなか良い絵だな」と嬉しく感じた次第です。

また床の拝見では、亭主のおもてなしの心を学び、実際にお茶を点てることで、お菓子やお茶の味が一層美味しいものになつたようです。

瞬時に数字が地球をかけ廻ることで、時代にあって、ゆっくりと、静かにお茶やお花は如何でしょうか。冬の真ん中で寒椿に出会つたようになります。

本年も、宍粟茶華道協会をよろしくお願い申し上げます。

# 世代をつなぐ

## 宇原獅子舞

宇原獅子舞保存会

井 口 浩 一

宇原獅子舞は、百五十年もの間、宍粟市山崎町宇原において、世代を超えて引き継がれてきた伝統のある獅子舞です。私は、今年で三十七歳になりますが、宇原獅子舞に初めて携わったのは三歳の時です。当時、現役で活躍をしていた祖父と父親の薦めで、宇原獲子舞に三歳ながら初出演をさせてもらいました。祖父が笛を吹き、父親が獲子を舞わし、私が踊子をしました。最近、その時の記録ビデオを観る機会がありました。そこには、一生懸命踊子をしている私のそばに、とても優しい祖父と父親の笑顔がありました。宇原獲子舞が祖父、父親、私と三世代をつないでくれたのだと実感しました。



「宇原岩田神社秋祭り」  
日付：平成28年10月9日  
場所：宇原岩田神社

も達へ獲子舞を教えています。ここには、世代をつなぐ架け橋として宇原獲子舞が存在しています。そこから、日常生活においても、地域の中で声のかけ合いや気遣いと思いやりがうまれています。

私は、そんな宇原獲子舞をこれからも大切に守り、これから世代へつないでいきたいと思います。私を育ててくれた村の人たちに感謝をして、より地域が発展する事を願っています。

今、私は一歳の子どもがいます。私の夢は、私と父親と子どもの三人で獲子舞に出演する事です。そして、これからの中も達が宇原獲子舞を伝承し、地域を愛してくれればと思います。

私は小さい時から、歌を歌うこと大好きでした。昨年亡くなった母（岡山）も歌うことが好きでした。母から「ミカンの花咲く丘」、近所のお姉さんから「冬景色」を教えて貰い、お風呂の中でいつも大声で歌っていました。特に滝廉太郎・土井晩翠の日本歌曲「荒城の月」、岡野貞一・高野辰之の「ふるさと」、スコットランド民謡の「螢の光」、文部省唱歌「仰げば尊し」、高校でのイタリア民謡の「オーソレミオ」等で、あげればきりがありません。

二年前に、仕事から離れて、ずっと歌を習いたいと願っていました。昨年の二月に「城下の集い」で知り合いの方から「町民合唱団があり、見学に来ませんか。」とお誘いを受け、早速訪ねていき、その時に入団しました。それは私の予想を越えた素晴らしい合唱団でした。

練習は月二回、一回が二時間で、

# 合唱団に入つて

山崎町民合唱

中川 正比古

七時三十分から九時三十分です。この合唱団の特徴は、まず发声練習から始まります（私はこの段階から習いたいと願っていました）。そして、練習曲は次の年の三月の音楽祭に向けての発表曲を一年かけて練習します。ド素人の私にとって、大変難しい合唱曲ですが、指導者の先生、ピアノの先生は明るく粘り強く指導してくださいます。曲は難しいですが、

私は小さい時から、歌を歌うこと大好きでした。昨年亡くなった母（岡山）も歌うことが好きでした。母から「ミカンの花咲く丘」、近所のお姉さんから「冬景色」を教えて貰い、お風呂の中でいつも大声で歌っていました。特に滝廉太郎・土井晩翠の日本歌曲「荒城の月」、岡野貞一・高野辰之の「ふるさと」、スコットランド民謡の「螢の光」、文部省唱歌「仰げば尊し」、高校でのイタリア民謡の「オーソレミオ」等で、あげればきりがありません。

合唱団に参加して、一番の喜びは皆さんのハーモニーの素晴らしさ、透き通るピアノの音色を毎月二回は鑑賞できることです。まさか、この年（七十一歳）になって、このような暮らしが出来るのは夢にも思いませんでした。是非、一緒に合唱しませんか。声を出すと胃腸も良くなり、ストレスの発散効果は抜群です。

合唱はいろんな声質の人が多人数になれば、より幅の広い、味わい深い効果が出来るそうです。この言葉を信じ、厚かましくこれからも団員でいたいと思っています。

## 昭和会の「これまで」と「これから」

昭和会  
安井克典

人は字の通り、一人では生きて行けません。友達は、すべてに勝る「珠玉」です。友に合い、友と語る、只それだけで心が温まり、明日への希望と勇気が満ち溢れてまいります。

今まで、友と共に、友を迎へ、友を送り、共に「歴史」を築いてまいりました。姿・形は色々と変化してまいりましたが、会員夫々が夫々を支え、守り合っている根本の部分は不変のものであります。

仲間がいよいよ郷里山崎に住むことになり、その環境をより豊かな充実したものにするために、友人・同志相集いお互いに連携してゆくため、昭和三十二年四月一日に結成したものです。

特に特定の目的を持つたり、高い理想に燃えたものではなく、気楽な仲間の集まりです。その後、郷里に帰ってきた友人達も誘い合わせて現在に至っております。

振り返りますと、設立より既に六〇年を数えて、会員の累計は七九人に及んでおります。六〇年の年月は歴史を刻み、現在の人数は二八名となっています。五一名の仲間が住む世界を換えており、時間の歩みを感じさせます。



## 私の好きなこと

山崎美術協会

大部輝美

私が小学一年生の時、担任の先生

はベテランの女の先生で飯塚先生でした。その先生が图画工作の時間に描いた私の絵をとても褒めてくださいました。子どもだった私はそのことがきっかけで図に乗るというか調子に乗るというか、一気に絵が好きになりました。

他にも、鮎かけをしたり、瀬張り網を使って小魚や鮎を獲ったりもしていました。今では、菊作りをしたり、仲間とグラウンドゴルフに興じたり楽しく過ごしています。

ところが還暦を過ぎ、家族もそれぞれ落ち着き、仕事も一段落したと思つた時、突然「絵を描きたい。描いてみたい。」という思いが強くなり、どうしても福岡先生が指導されている文化会館の絵画教室に入りました。申し込みました。

最初の作品は「揖保川の五十波から岸田にかかる三津の井堰」の絵です。それが平成十一年の第三十五回山崎町美術展で神戸新聞社賞をいたしました。

だいたのです。もう嬉しくて嬉しくて、それからは絵の道具を車に積んで、日帰りや一泊のスケッチ旅行に度々出かけるようになりました。今思うと、あの頃はまだ元気だったし、本当に楽しい良い思い出になっています。

また、絵画教室でのいろいろな方との出会いやふれあいは、これまでの生活にはなかった新しい一ページになっており感謝しています。

六十五歳になって老人大学に入学したら、クラブ活動で日本画の片山教室があり、私はそこにも入り、日本画と洋画の二本立てをすることになりました。二兎を追うものは一兎を得ず、と言いますが、二兎を追わないものは絶対に二兎を得ることはできませんので、このままがんばってみようと思っています。

しかし、八十二歳になりますと、自分の身体でありながら自分の思うようにはなかなかならないもので「歳やな」と愚痴ります。家内が「都合が悪くなると、歳のせいにしてや」と笑います。私は多くのことを色々してただけに、たくさんの方々にお世話になり、今日を迎えています。本当に感謝です。有難うございました。

## さつき民踊グループとの出逢い

さつき民踊グループ  
中野 みつゑ

をはじめ切磋琢磨したグループの仲間、そして練習日には快く送り出してくれた家族のお陰と感謝しております。

蓮如上人の名文・西本願寺系では「白骨の御文章」東本願寺系では「白骨の御文」という。

私はこの御文章を聞く度に、蓮如上人よりも約三百年前の人・中世の歌人であり、後に僧侶となつた鴨長明の名文を思い出すのです。



### 「名文が生まれた背景」を探る

新潮会  
田 中 義 弘

観するに、おほよそはかなきものはこの世の始中終、まぼろしのごとくなる一期なり（中略）我やさき、人やさき、今日とも知らず明日とも知らずおくれ先立つ人はもとのしづくゑの露よりもしげしといへり。されば朝には紅顔ありて、夕べには白骨となれる身なり。すでに無常の風きたりぬれば、すなはちふたつのまなこ、たちまちにとぢ、ひとつのかきながくたえぬれば、紅顔むなしく変じて桃李のよそほひを失いぬるときは

（以下略）

お通夜で導師の僧侶が厳かな声で、御文章をあげられた時、通夜の客は皆深い感動をおぼえるのです。無常觀というものでしようか。「宗教の出会い」「後生の一大事の出会い」ではないでしょうか。死を体験した故人から世の無常さを学び、生命の強烈に共通する死生觀があり白骨の御文章は『方丈記』をヒントにしてつくられたのではないかと常々思つております。これが日本人の精神史にもなっているのではないでしょ

た。

週一回の練習日を楽しみに続けさせてもらいましたが、その間には、なかなか思い通りに覚えられず、悩んだこともあります。

しかし、今日まで続けられたのは、ある時には厳しく、ある時には優しくご指導いただいた坂東寿賀幸先生

をはじめ切磋琢磨したグループの仲間、そして練習日には快く送り出してくれた家族のお陰と感謝しております。

蓮如上人の名文・西本願寺系では「白骨の御文章」東本願寺系では「白骨の御文」という。

私はこの御文章を聞く度に、蓮如上人よりも約三百年前の人・中世の歌人であり、後に僧侶となつた鴨長明の名文を思い出すのです。

# 詩吟と共に

吟道撰楠流  
宍粟吟詠会

山口 摂徹

我が吟詠会の活動を紹介いたします

す。平成二十八年十二月十八日にた

つの市の志んぐ荘にて、総本部錬成

部による発表会と西播北部地区出前

講習会が行われました。ここでは単

位会から選ばれた方々の吟詠指導を

します。まず发声練習から始まり、

漢詩の読み方や发声方法等へと限ら

れた時間の中で何度もやり返しながらの講習です。

受講生は不安と緊張の中での講習

ですので、吟詠に精一杯だと思われ

ます。しかし、時間が経つと何かの

ヒントが得られると思います。会場

で聞いている多くの会員さんにもこ

れからの吟詠に役立つことでしょう。

その後、錬成部員による構成吟

「ニッポンの桜を謡う」を出吟者二

十数名により独吟、合吟、剣舞。そ

のたびごとに大きな拍手が起ります。

部員の方々との交流を喜び合い有意義な一日を過ごすことが出来まし

た。次なる発表会が何処の地区であるか楽しみです。

撰楠流では、春と秋に考查会があります。はじめに四級の受験があり、三級、二級へと進級して、初段の受験には必ず和歌を取り入れています。

受験する人、聞いている人それぞれが緊張の中で考查が進みます。多くの方に合格してほしいと願うばかりです。

普段の練習は、各種の吟詠発表会が多いため、主に吟詠練習をしていきます。練習の中で多くの詩歌と出会い、通解（解説）を読むことで、歴史上の出来事やその人物の一端を知ることが出来ます。詩歌は吟ずる人にとって身近な教本です。

吟詠に限らず、邦楽の妙味は一声

一節であり、吟詠の魅力の第一に挙

げるべきものはなんと言つてもその

節調であろうと思います。基本をしつかりと身につけて、練習に練習を重ねて錬成された声が出たときの喜びは達成感と同時に何にも代えがたい味わいがあります。

会員の皆さんと共に目標を持って稽古が出来る楽しい教室これこそが一番です。

# 花は色 踊りは心

山崎日本舞踊の会（郁踊会）

堀川弘美

私は、幼い頃に習った日本舞踊

かの夢のような存在になっていま

した。ところが、私の友人のお姉様

が、中谷先生であり、お誘いを頂きました。

その上、私の習ったかっただ藤間流

を教えておられ、耳を疑うほどびっくりしました。

初めてお会いしました折に、「花

は色、踊りは心、人は道」とのお言

葉を大切にと教わり、私は、いっぺんに中谷先生の大ファンになりました。

踊りなど、芸術は心の表現だと

思うと同時に、年令、みかけ、上手下手などにとらわれず、ただひたすら心をこめて踊れば良いと思いまし

た。そして着物の事や小物も、解らないまま、ご面倒をおかけすることになりました。

本当に周りの皆様に心より感謝し、お礼申し上げます。ありがとうございます。

始まるワクワクして嬉しくて、嫌な事など忘れ夢中になりました。丁寧に、どんな質問にも答えてくださいました。少しずつ、自然に覚える事ができ頑張りました。

次におけいこの場も明石から山崎に変わり、遠くなつて不安にもなりましたが、故郷である香川県にいるような暖かい雰囲気の中で、おかげ

に変わり、遠くなつて不安にもなりましたが、故郷である香川県にいるよう

な夢のようになつて、結婚してからも、習いたいと希望を持ち続けていました。でも日本舞踊は、手の届かない夢のような存在になつていま

した。ところが、私の友人のお姉様が、中谷先生であり、お誘いを頂きました。

今や弱かつた私から抜け出し、家族も喜んで応援してくれています。

先生の日本舞踊を大切に思い、すべてを提供して下さる姿に感動し、尊敬しています。

そして山崎の芸能祭を開催して下さるおかげで、舞台に立つこともできました。

本当に周りの皆様に心より感謝し、お礼申し上げます。ありがとうございました。

稽古が出来る楽しい教室これこそが一番です。



## 和太鼓に 魅せられて

宍粟和太鼓アーツ俱楽部

西尾紀彦

小学生のときに、地域の人とふれあう行事がありました。音楽に興味がなかつた私でしたが、母に勧められ和太鼓のある教室（おそらく一年生教室だったよう）に入りました。それが、和太鼓との初めての出会いでした。小さい体ながらに、音が全体に広がったのを感じたことを覚えています。

時が経ち、今度は小学校を建て直す前のイベントで「倭音」と出会いました。そして、内海先生にも、後に別の場所でお会いしました。続く出会いで私の和太鼓への興味はどんどん高まりました。そして、練習と仕事の両立に不安があるものの、自身和太鼓教室へ飛び込みました。

和太鼓のリズムは、初めは難しいものでした。二月にある和太鼓フェスティバルに向けて練習していることを知ったときには、少し後ろ向きになりました。しかし、一般教

室の方と一緒に練習し、親睦を深めていくうちに、この人たちと演奏したい気持ちが強くなりました。二月、フェスティバル当日、大人になって久々に舞台に立つという緊張を感じました。久々の感覚に楽しさも感じました。フェスティバル後の打ち上げで、倭音の人と話す機会があり、倭音に入ることを決めました。

あの小学校でのイベントで憧れた人たちと一緒に和太鼓を叩けることは大変嬉しいと思いました。と思うのも束の間、倭音の練習は厳しいものでした。毎回襲つてくる筋肉痛。いつもできるamax。それでも、練習に行きたくないと思ったことは一度もありませんでした。それは、一つの感情「楽しい」からです。

初めて舞台に立つてから早くも年が経とうとしています。倭音の仲間たちと、本番で観客のみなさんに感動を届けられるように日々取り組んでいます。その演奏を聴いて、私のように和太鼓に魅せられる人が増えていることを願っています。

調べてみると、全国的に新民謡ブームが起きていた昭和七年に山崎の有力者の尽力で、作家野口雨情さんと作曲家中山晋平さんが山崎に来られ、作られたのが、「山崎小唄」と「宍粟民謡」です。その後、昭和二十二年に作られた「宍粟音頭」も盆踊りによく唄われたようです。

室の方と一緒に練習し、親睦を深めていくうちに、この人たちと演奏したい気持ちが強くなりました。二月、フェスティバル当日、大人になって久々に舞台に立つという緊張を感じました。久々の感覚に楽しさも感じました。久々の感覚に楽しさも感じました。フェスティバルの後の打ち上げで、倭音の人と話す機会があり、倭音に入ることを決めました。

あの小学校でのイベントで憧れた人たちと一緒に和太鼓を叩けることは大変嬉しいと思いました。と思うのも束の間、倭音の練習は厳しいものでした。毎回襲つてくる筋肉痛。いつもできるamax。それでも、練習に行きたくないと思ったことは一度もありませんでした。それは、一つの感情「楽しい」からです。

初めて舞台に立つてから早くも年が経とうとしています。倭音の仲間たちと、本番で観客のみなさんに感動を届けられるように日々取り組んでいます。その演奏を聴いて、私のように和太鼓に魅せられる人が増えていることを願っています。

調べてみると、全国的に新民謡ブームが起きていた昭和七年に山崎の有力者の尽力で、作家野口雨情さんと作曲家中山晋平さんが山崎に来られ、作られたのが、「山崎小唄」と「宍粟民謡」です。その後、昭和二十二年に作られた「宍粟音頭」も盆踊りによく唄われたようです。

## 山崎小唄 に想う

山崎邦楽の会  
長唄三味線 藤の会  
中井妙子

アリヤ

早速、それらを三味線で弾いたら色々な方が懐かしいと唄つてくれました。山崎小唄は当時のふるさと山崎を生き生きと映しています。

長唄は歌舞伎や日本舞踊の音楽です。かつては東京や大阪だけでなく、小さな町々に長唄、清元、小唄に俗曲、民謡など色々なジャンルを教えるお師匠さんがおられたようです。

今は長唄を習うにしても大阪くらいまで行かなければならぬのが現状です。裾野が広がっていないということは、日本の伝統音楽も廃れるわけです。

昭和七年には揖保川で多くの木材を運んでいたのでしょう。

もちろん、時代が変われば世相も歌も変わっていき、古いものが消えてゆくのは世の常です。でも、江戸時代の長唄を演奏していると、江戸の文化が生き生きと甦るから不思議で魅力的です。古典の面白いところです。

長唄の裾野が少しでも広がればとささやかな活動をしていますが、一方で昭和初期に新民謡で盛り上がったようにふるさとの新しいわくわくするような何かがあつたらと思っています。

初めて舞台に立つてから早くも年が経とうとしています。倭音の仲間たちと、本番で観客のみなさんに感動を届けられるように日々取り組んでいます。その演奏を聴いて、私のように和太鼓に魅せられる人が増えていることを願っています。

調べてみると、全国的に新民謡ブームが起きていた昭和七年に山崎の有力者の尽力で、作家野口雨情さんと作曲家中山晋平さんが山崎に来られ、作られたのが、「山崎小唄」と「宍粟民謡」です。その後、昭和二十二年に作られた「宍粟音頭」も盆踊りによく唄われたようです。

## 1 UP (わんなつぶ)

すべてに感謝  
そして基本を大切に

平成会  
杉元孝行

平成会は、毎年その年の会長が、テーマを決めます。一昨年は「コントロール」、昨年は「和顔愛語（わんあいご）」そして今年のテーマは「1 UP（わんなつぶ）」～すべてに感謝！そして基本を大切に～ともういたしました。このテーマは人として、社会人として精神的にも肉体的にも、もう一段ランクアップしたいという気持ちを込めたテーマとしました。

今自分がるのは誰のおかげ？父母、先祖、これまでかかわって頂いた人たち、自然、動物、植物等すべてに感謝しつつ、人としての基本的な物差しを大切にしながら、もう一段会員の皆様とともに成長したくこのテーマにさせて頂きました。

平成会の今年の活動としましては、四月には、「吉野太夫花供養」見物と京都御所「春季特別公開」を拝観しました。五月には、メンバーである長田氏を講師として「カザフスター

ンあれこれ」と題して講演をしていただきました。六月には、恒例の「ジャガイモ掘り」を実施し、十五園所の児童に参加してもらい、収穫体験をしていただきました。七月には、講師にNPO町なみ家なみ研究所の酒井宏一氏を迎えて講演をしていただきました。八月には、創世会と懇親ゴルフコンペを実施し、懇親を深めました。九月には、宍粟市商工会長の三渡圭介氏を講師に招き、「宍粟市がドイツに学ぶこと」と題して講演をしていただきました。十月の例会は中止となり、十一月には、「そば打ちとそば焼酎」の体験例会を実施しました。十二月には、忘年会で一年の反省をさせて頂きました。そして大晦日に山崎八幡神社で、カウントダウンコンサートを共催しました。

平成会の活動目的は、地域社会の文化的諸問題を調査研究し文化的発展に寄与することと、会員相互の親睦を図り、相互の資質の向上をめざすことです。

今年も、この目的に沿っていい活動ができました。今後も文化協会の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 目標に向かって 健康第一

山崎民謡連合会  
日本民謡 山っ子会  
石田陽子

にだけ向かって、毎日を元気よく突き進むことが大事なのだと教えられました。今年も、元気な唄声を、元気な山っ子を皆様にお届けしなければならぬと思っています。

各施設の訪問やイベントへの参加など、いつでも声を掛けてください。

都合のつく限り、行かせていただきます。そして、二十五周年を実施するという目標に向かって、健康第一で頑張っていきます。皆様、応援よろしくお願い申し上げます。



## 黒穂豊子先生

### を偲んで

中居里子

ターンアートクラブ

時の経つのは早くお別れしてはや  
四年がたちました。

私と黒穂さんとの出会いは、十七

年ほど前、山が桜色に染まつた頃に  
入会した日本画教室でした。初めて

拝見した絵はカラスウリの作品で、  
絡まる薦が繊細でバーミリオンのカ

ラスウリが可憐で印象的でした。ま  
た何層にも重なったマチエールに心  
を惹かれたのを思い出します。

私が、庭で咲いた花をドライにし  
てお届けすると、たいそう喜んでく  
ださり、それが素敵な作品になっ  
ていきます。その制作の過程を見せて  
頂くことは大変勉強になりました。

デッサンから構図をとり本画へと丁  
寧に描き進まれるプロセスで多くの  
ことを学ばせて頂きました。

ただ淡々と自分に正直に甘えるこ  
となく描き続けてこられた黒穂さん  
の姿勢に敬意を表します。

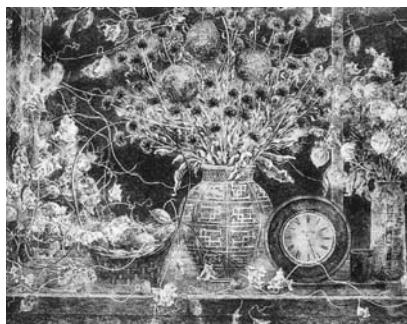
この度、ご家族が市役所ロビーで

二〇一七年三月一十七日（月）から  
三十日（木）までの四日間「日本画  
黒穂豊子回顧展」を催されます。

繊細で美しく、モダンな絵をご覧

になつていただければ幸いに存じま  
す。

その後、それらの作品を宍粟総合  
病院、山崎文化会館、一宮北小学校、  
一宮北中学校等へ、寄贈される予定  
です。



窓辺の詩 (F50) 第34回日春展

## 宍粟の森に響け 少年少女の歌声

宍粟市少年少女合唱団

育成会 龜井 恵

今年度卒団する六年生は四人です。  
から四年が経過しようとしています。

宍粟市少年少女合唱団が発足して

この度、ご家族が市役所ロビーで

「山崎児童合唱団」から所属して  
いる子、「宍粟市少年少女合唱団」

設立時に入団した二人の子、百千家  
満から頑張って毎週練習に来てくれ  
ている子です。以下、四人の感想文  
をお読みください。

澤田和香菜

私が合唱団に入ったきっかけは、  
六才の時にミュージカルを見て楽し  
そうだなあとと思い、一年生の十月に  
入りました。最初は歌を歌うことでは  
必死でした。でも、だんだん声が変  
化して上手に歌えるようになります。  
歌だけではなく、一月にあるミュ  
ジカルの練習もあります。六年生に  
なるとセリフも多くなつて大変だけ  
ど、自分が成長した姿をたくさんの人  
に見てもらえるように頑張りたい  
です。

西岡葵

私は、三年生の時に合唱団に入団  
しました。同じ小学校の子はいなく  
て初めは少し不安だったけど、友達  
もできて楽しく練習ができるようにな  
りました。今年の定期演奏会は私  
にとって四回目の定期演奏会です。  
役は三蔵法師です。セリフを覚える  
のが少し大変だったけど、しっかりと  
言えるように今まで一生懸命練習し  
てきました。練習してきた成果を発

揮できるよう三蔵法師になりきつ  
て頑張りたいです。

龜井七海

私は、歌うことが大好きで合唱団  
に入りました。最初はすごく不安だつ  
たけど、今はたくさんの友達ができ  
ました。合唱団ではふだん学校で歌  
わない曲を歌います。最初は難しい  
けど、全部覚えると「全部覚えたぞ」  
という達成感があります。難しい曲  
を覚えるたびに、きつい練習も最後  
は楽しい気持ちでいっぱいになります。  
今年の定期演奏会が最後のミュ  
ジカルになります。後悔しないよう、  
全力で頑張ります。

田路明穂

私は、四年生の終わりに合唱団に  
入りました。きっかけは、仲の良かつ  
た友達が合唱団に入っていて、ミュ  
ジカルを見に来た時に「楽しそうだ  
な」と思つて入りました。初めはと  
てもはずかしくて友達にひつつい  
いました。でもみんな話しかけてく  
れてとてもうれしかつたです。それ  
から二年。私も六年生になつて、ジュー  
ニアを卒団します。次はシニアに入  
ろうと思います。今年のミュージカ  
ルでは沙悟浄をします。私は女子だ  
けど、頑張って男の子を演じます。

# 山崎いさわ

## 冠句会

中瀬公三選

夢の中 父の言葉に背を押され  
手をつなぐ 地域づくりの快さ

大谷志路

夢の中 我がふる里に人の声  
手をつなぐ 地域興しの三世代

坂本忠彦

夢の中 老いの行く道あれこれと  
手をつなぐ 我が子よその子区別無く  
夢の中 逢えない夜を埋めて朝  
手をつなぐ 心通わせ幸願う

大槻浩美

構文香

夢の中 無垢な寝顔にホッとする  
手をつなぐ 共に歩むと決めた道

嶋津千里

成影廣子

夢の中 最期の親父ビール手に  
手をつなぐ 老い病む母の顔覗く

宇田幸夫

夢の中 冠句の本をかえ込み  
手をつなぐ 里の未来を盛り上げて

中瀬公三

夢の中 笑顔が集う日だまりに  
手をつなぐ 平和な世界続くよう

三木ひづる

夢の中 好き放題で大はしゃぎ  
手をつなぐ 支えてくれる友が居て

山口定子

夢の中 月の砂漠をばかばかと  
手をつなぐ 人には心燃える頬

西川少升

夢の中 母の笑顔よ消えないで  
手をつなぐ 回復嬉し冬日和

東田鶴子

夢の中 亡父母も姉妹も皆元気  
手をつなぐ 互いに支え老いの坂

内海喜代子

夢の中 孫の寝顔に癒される

西川少升

夢の中 さまよい乍ら現みる

実友勉

夢の中 さまよい乍ら現みる

伊沢会

手をつなぐ 切磋琢磨し伊沢会

谷笛まや

夢の中 いろんな人と会話する

為国真佐行

夢の中 悠々自適の有難さ

中務淑子

夢の中 悠々自適の有難さ

宇田幸夫

夢の中 悠々自適の有難さ

宇田幸夫

夢の中 悠々自適の有難さ

宇田幸夫

# 川柳破丸会

## 清水省三

会員も二人増え十三人となり毎月

西信本店、総合病院ロビーにも、

楽しく句会を行っています。

西信本店、総合病院ロビーにも、

展示しています。

整理するつもりが惜しい 物ばかり  
賞味期限 鼻で決めてたおばあちゃん

張る財布 ねだられ見せた 診察券

ちどり足 酔つていません 関節痛

難聴を ばあちゃん上手に使い分け  
千本風 笠

早とちりひと息しやべって 人違ひ  
天災は 忘れない間に やって来る

風読めぬ 父ちゃんひとりカヤの外

千本花夢

中居絵師

お年玉 顔見りやこの子 あの子に

健康に 毎日二万歩 医者に行き

再会で お互い若いと 誉めちぎり

お年玉 顔見りやこの子 あの子に

も いい数字 出るまで 血圧計つてる

使い捨て 捨てずに洗う シニア層

今ピッタリ 置いてて良かつたマタニティ

坂東笑雅

お母さん 七色の声 使い分け

健やかな 体手に入りや死んでいい

近頃は 早いばかりを もてはやし

高橋忘劍家

健康だ 怒鳴る貴方が 先に逝き

決めた事 四日目はもう 忘れてる

地下水が 湧いて税金 水に溶け

船元哲心

どうぞと 言われやっぱり俺はジイ

大往生 待っているのに 立ち往生

健康器 使わぬうちに 車椅子

清水三省

## 認知症の予防 と囲碁について

山崎囲碁同好会

竹添和彦

超高齢化社会を迎えた今の日本では認知症の方が増え続けています。認知症の方は記憶力に問題があることが多く、家族やどんなに親しい方でも忘れてしまう例があります。予防策としては、記憶力が低下しないよう頭脳を使うことが良いと言われ、一つの方法として囲碁があると言われています。

私が囲碁に出会ったのは、父が我が家で近所の囲碁仲間と囲碁を楽しんでいるのを見たときに、囲碁を親みましたのが始めです。最初のうちは父に星目（九目）を置いて相手をして負けてばかりでした。

父の亡くなった後、囲碁付き合いのご縁で守拙会に入れていただきましたが、入会してみると会員は高段者で相手になりませんでしたので、退会したいと世話人に話をしますと、父親の供養と思って継続しなさいと諭されました。今はそのお陰で継続は力なり、高段者を相手に四目から

五目を置いて相手が出来るようになります。今になると諭してください方があって有難いことでした。

記憶力を増す方法として、囲碁では色々な方が相手であり勝敗をかけて、手数を読んだり・コウとか・ウツテガエシとか・セキとか・生きは目が二つ・目が二つないと死等・二手から三手を色々考えることが必要であり、場所の取り合いであって、それが勝負です。

色々頭脳を使うことが認知症の予防策として最高の方法であると聞いていますので、囲碁が楽しめる間は囲碁仲間との交流を継続したいと思います。今後もご指導くださいます。年春のさつき囲碁大会、秋の菊花囲碁大会が開催されますので多数参加してくださいますようお願い申し上げます。



## 第三十八回春の芸能祭ご案内

主 催 平成二十九年五月二十一日（日）午前十時から  
所 山崎文化会館 大ホール  
後援 春の芸能祭実行委員会・（公財）宍粟市文化振興財団  
宍粟市・宍粟市教育委員会・宍粟市文化協会・  
宍粟市山崎文化協会

山崎文化協会の参加団体が中心となって、会員の皆様の日頃の練習の成果を発表いたします。一宮・波賀・千種からも贊助出演していただきます。多くの皆様のご鑑賞とご声援をいただきますようよろしくお願ひいたします。

今年度の出演予定団体をご紹介します。

□邦樂 山崎竹社会・司友会・光陽会・琴泉菖蒲会・絵夢の会・藤の会・姫路正絞社波賀教室  
□邦舞 郁陶会・むらさき会・千代の会・美藤会・若松会  
□民踊 さつき民踊グループ  
□詩舞道 紫洲流日本明吟会・吟道撰楠流空葉吟詠会・冠翔流扇翔会・  
早瀬流大日本敬天社本部道場山崎支部  
□民謡 山崎民謡連合会・波賀民謡会  
□日本舞踊 山崎日本舞踊の会



## やまさき文化歴代特別寄稿者一覧

No.	発行年	月	氏名	所属・役職等	題名	出身地
8	1989	2	松井 叔生	洋画家 二紀会理事	私のふる里頌	山崎町
			北岡 修	山崎保健所長 医学博士	嘘	
9	1990	2	小倉 正恒	広島県立大学教授	戦闘帽の教訓	庄能
10	1991	2	長川 太郎	灘神戸生活協同組合名誉理事	帰ってきた今浦島	
			岡本 亘弘	NTT播磨山崎営業所長	電話100年とコミュニケーション文化	
11	1992	2	前田 浩	熊本大学医学部主任教授	科学技術におけるコミュニケーションと言葉	川戸
			植木 行宣	京都府文化財保護課	故郷の記憶から	紺屋町
12	1993	2	松岡 史朗	野生動物写真家	サルに魅せられて	鹿沢
			清水 大吉郎	京都大学理学部講師	曲がる石の話	鹿沢
13	1994	2	堂元 光	NHK政治部記者	38年ぶりの政権交代-前途多難な細川政権-	岸田
			上山 安敏	京都大学名誉教授	あるパーティーの席で	山田町
14	1995	2	河本 泰	農学博士	稻作雑感	青木
			谷口 清作	警察庁長官官房国際部国際第2課長	語学勉強のことなど	上比地
15	1996	2	中嶋 彰	日本経済新聞社科学技術部次長	ウソと科学の眼	鹿沢
			山中 昭夫	医療法人財団神戸海星病院理事長・病院長	新しい眼科の手術と山崎町	西町
16	1997	2	北川 博敏	香川短期大学学長	塩	鹿沢
			柳田 博美	ガンバ大阪チームドクター	アジアへ、そして世界へ	出水町
17	1998	2	八瀬 清志	通商産業省工業技術院物理工学工業技術研究所 高分子物理部グループリーダー	ふるさとは遠きにありて思うもの	鹿沢
			新聞 勝代	元山崎小学校長	お箒と私	大歳町
18	1999	2	湯野 勉	龍谷大学教授	当世大学事情	中比地
			杉山 真由美	染色家 嵐峨美術短期大学講師	染める心、生きる力	山崎町
19	2000	2	黒藪 次男	作家	日中合作映画の誕生-『チンパオ』と『少年の目』-	庄能
			竹田 浩三	大分県企画文化部総合交通対策局	大分にて	庄能
20	2001	2	三浦 良造	一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授	新しい大学院作り	山田町
21	2002	2	稲村 一郎	(株)日立メディコ勤務	若者よ、世界を觀よう、識ろう	鹿沢
			松井 叔生	画家	奇しき出来ごと・ふる里に想う	山崎町
22	2003	2	沢田 寿仁	虎の門病院消化器外科部長	正月は故郷で	庄能
23	2004	2	藤井 久子	元安富北小学校長	直木賞作家宮尾登美子さんの講演を聞いて	五十波
24	2005	2	本條 肇	千葉大学教授	長い目で見ると	福原町
25	2006	2	尾崎 久記	茨城大学教授	「教育」再考	高下
26	2007	3	田中 良晴	大阪府立大学助教授	”誠”なる理科学教育に向けて	三津
27	2008	3	富和 昭弘	彫刻家	飲んだらり、だらだらと	鹿沢
28	2009	3	堂元 光	NHK大阪放送局長	地域貢献～ふるさとに感謝	岸田
29	2010	3	野中 章弘	ジャーナリスト	『戦いの記憶を歴史に刻むこと』	安志
30	2011	3	赤川 弘三	日本美術家連盟会員	上海で考えたこと-漢字と和製漢字	中広瀬
31	2012	3	前田 浩	崇城大学DDS研究書特任教授 熊本大学名誉教授	平成23年度日本癌学会吉田富三賞を受賞して	川戸
32	2013	3	松岡 史朗	動物写真家	故郷は遠きにありて思うもの	鹿沢
33	2014	3	稻澤 譲治	東京医科歯科大学難治疾患研究所教授	宮古島の青い空	鹿沢
34	2015	3	八瀬 清志	独立行政法人産業技術総合研究所 計量標準総合センター	2019年に世界が変わる～SI単位の再定義～	鹿沢
35	2016	3	野谷 るり子	県立山崎高等学校校長	宍粟市の文化人をめざして	上寺
36	2017	3	柳田 芳伸	長崎県立大学経済学部教授	文献・資料収集熱と人間的進歩	山崎町
			江崎 欽次郎	能楽師ワキ方福王流江崎家十二世	山崎における能楽文化と江崎家	

穴粟市山崎文化協会

### 役員及び団体名

「やまさき文化」編集委員

伊藤 次郎  
中澤ゆかり  
会計事務局次長

編集長 清水省三  
委員 浅田耕三  
鎌田裕明 荒木俊介  
秋久光子 前野良造  
森本萬千子

下村 悅子 小西 美穂

事務局だより

山崎中心市街地活性化のうねり

山崎町の中心部にある市街地が寂れています。現状を踏まえ、街なかに賑わいを取り戻す、城下町の歴史的資

源も活かそうとする取り組みが昨年

四月から始まっている。商店街の若

い店主達や、市商工会、観光協会、

さかに堺城住民が三條にかかり 徒政

委員会がその母体として組織されて  
いる。私は「まち歩きガイド」の一

としてその会の歴史観光部会に所している。この機に今に残つていい歴史的建造物や、城下町の遺構を内外に発信していくと考えてい。

三十六号を刊行するに当たり、荒木俊介さんが「平安時代の物語」を出稿してくださいました。今回で終わりとのことを聞くにつれ、この『やまさき文化』の創刊から関わっていだいたこと、多くの随筆を残されていることなど当誌に長らく貢献され、本当にありがとうございました。

特別寄稿は、今回一人の方からいたきました。長崎県立大学教授の柳田芳伸氏（マルサス研究家）から資料収集にまつわる苦労を、ユーモアを交えたエピソードとして書いていただきました。また、能楽師江崎家十二世江崎欽次朗氏より能文化と山崎の関係を江崎家の歴史と合わせて書いていただき、貴重な資料となっていました。感謝いたします。

本号も多くの分野で活躍されてい  
る人々から活動の一端をご紹介いた  
だき、多彩で内容の深いものになり  
ました。特に子どもさんたちの活躍  
の様子には将来への希望を与えてい  
ただきました。

事務局長 大谷司郎

デンソー指定サービスステーション  
自動車電装品整備・携帯電話代理店・レンタカー

## K カメウチ電器株式会社

本社・工場 兵庫県宍粟市山崎町今宿 98-15

TEL (0790) 62-1607(代)

太子営業所・姫路営業所・たつの営業所・福崎店

## ふじむら貸衣裳

人生の節目を飾る大切な一着を貴方に

結婚式はもちろん成人式・卒業式・七五三

また留袖や訪問着・喪服のご衣裳など

豊富な品揃えでお客様をお待ちしています。



兵庫県宍粟市山崎町山崎 180 Tel:0790-62-0052 <http://www.fujimura-kashiishou.com>

### 贈り物に…「しそう杉ボールペン&シャープペン」

三菱鉛筆「故郷（ふるさと）の木持ち」シリーズは、地球温暖化と地域材振興策に「少しでも役に立つ商品」をコンセプトに作られた筆記具です。全国の都道府県産のスギ、ヒノキ、ヒバ、マツ等に高度な木材の加工技術を施したもので、適度な重さが高級感を醸し出しています。兵庫県では「しそう杉」が選ばれています。「しそう杉」のほのかな香りをお楽しみ下さい。



¥1,800 + 税

さらにレーザー彫刻（オプション）であなただけの1本に…

参加賞、記念品に…したんステーショナリー各種あります！

## トクサヤ文具

山崎町山崎 180-1 TEL62-0067

## ほっと、ひといき 伊沢の里

○お祝いの会食 ○法要後の会食

その他各種宴会承ります

リラクゼーションルーム 好評稼働中

〒671-2517 宍粟市山崎町生谷214番地1 TEL0790 (63)1380



Specialty Camera Shop  
**コーエーカメラ**

■本店/〒671-2576  
宍粟市山崎町鹿沢26-3  
TEL(0790)62-2089 FAX(0790)62-7429  
E-mail info@ko-e-1972.com

■咲ランド店/〒671-2545  
宍粟市山崎町中井10 咲ランドSC1F  
TEL・FAX(0790)63-0533  
E-mail saki@ko-e-1972.com

地域で最も信用・信頼される  
金融機関をめざして



●豊かな街づくりをお手伝いする●

# 西兵庫信用金庫

<http://www.shinkin.co.jp/nisisin/>

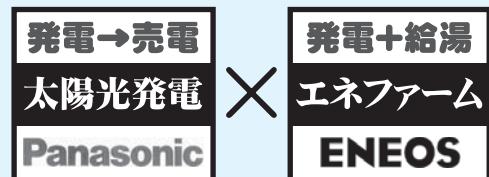
TEL 0790-62-2020



森の妖精/ネーチャ

森の妖精/サッキー

## 貴邸の電力を自給自足!



スマート&工芸な  
**「光熱費=ゼロ」リフォーム**

=お車と住まいの快適、なんなりと=

## ホンジョウ

(株)本條商店・ホンジョウプロパン(株)  
本社 宍粟市山崎町中井 96

石油・タイヤ・洗車・オイル  
バッテリー・車両整備・保険  
TEL 0790-62-4321

電気・ガス・水道工事・家電全般  
住宅リフォーム・太陽光発電  
TEL 0790-63-1234

創業明治28年・さつき本舗



御菓子司 さつき

御進物・おみやげ・お茶うけに、四季折々の  
真心こめた手づくりの御菓子を

山田店：播州山崎町山田（電）0790-62-0160

福崎店：福崎町西田原 1177（電）0790-22-7555

クセになる、なめらかさ。



名入れ料金 1本 350円

芯の太さ  
0.5  
ミリ

ギフト・記念品に名入れ刻印で  
オリジナル筆記具はいかがですか

## イトーオフィスサービス(株)

山崎町中広瀬 117-12 宍粟市役所南向い

穴粟杉シャープペン



NAGATA  
NAGATA GROUP

## 西兵庫トランスポーツ株式会社

本社 兵庫県宍粟市山崎町御名335-1

〒671-2554 TEL 0790-63-2007

FAX 0790-63-2007